

# 知っておきたい！骨粗しょう症

山陰中央新報 連載コラム バックナンバー ⑪

2021年3月29日掲載：歯周病は骨の病気

骨粗しょう症と歯科。あまり関係がなさそうに思われるかもしれませんが、実は深い関わりがあります。

例えば「歯周病」は歯科の代表的な病気ですが、歯の病気というよりも、骨粗しょう症と同じく、骨の病気と言えます。

歯は歯槽骨という顎の骨に支えられていて、歯周病が進行すると、この骨が溶けて歯はグラグラするようになり、最終的には抜け落ちてしまいます。

これまでの研究により、骨粗しょう症は歯周病の重症化リスクであることが明らかとなっています。骨粗しょう症の予防と治療は、歯周病の予防と治療でもある、と言っても間違いではないでしょう。

また、ここ数年で大きな話題となったのが「顎骨壊死」です。骨粗しょう症のお薬である「骨吸収抑制薬」の副作用として、顎の腫れや痛み、歯を抜いた後の傷が治らない、膿が出る、といった症状がまれに現れるのです。原因はまだはっきりとは分かっていませんが、口の中の衛生不良、歯周病などが危険因子として挙げられます。

口の中、特に歯垢や歯石など歯の周りの汚れには、約800種類もの細菌が生息し、歯周病の原因にもなります。骨粗しょう症の治療では、お薬を年単位できちんと使い続けることが大切です。顎骨壊死を予防しながら、安心・安全に治療を続けるためには、歯科を受診することが鍵となります。

症状がなくても、あらかじめ口の中の汚れ具合や歯周病の状態などをチェックし、必要なら歯の治療を受けておくほうが良いでしょう。また、その後も数カ月ごとに歯科を受診して、口の中を清潔に保つことも大切です。

なお、骨吸収抑制薬は顎骨壊死に関しては注意が必要ですが、決して歯や顎にとって良くないお薬というわけではありません。口の中を清潔に保ちながら使い続けることで、骨粗しょう症に加えて、歯周病も改善するという研究結果も数多く発表されているからです。

歯周病は骨粗しょう症のほかにも糖尿病や動脈硬化など、全身のいろいろな病気との関連が明らかとなっています。「歯医者嫌い」という方は多いでしょう。でも、ここはひとつ、全身の健康のためだと思って歯科を受診してみませんか？

